

大田区 HPV ワクチン男性予防接種費用助成事業【予防接種説明書】

この予防接種説明書（両面）をよくお読みいただき、医師と相談の上、接種してください。

ヒトパピローマウイルス感染症の発症を予防するとともに、心身の健康を増進し、経済的な負担を軽減するため、男性に対する HPV ワクチンの接種費用を助成します。

【対象者】

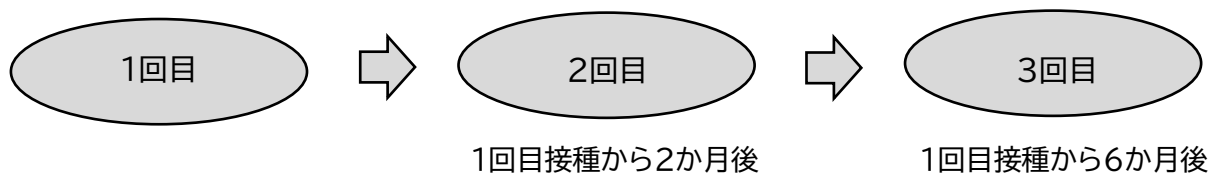
接種日現在、大田区に住民登録がある小学6年生から高校1年生に相当する年齢の男性

※ 既に HPV ワクチンを3回接種している方は、助成の対象となりません。

【助成額・助成回数・対象ワクチン】

全額(無料)/回・3回まで・4価 HPV ワクチン (商品名:ガーダシル)

※ 予防接種後に費用を請求できる償還払い制度はありません。

【標準的な接種スケジュール】

※ 標準的なスケジュールで接種できない場合、
2回目は1回目から1か月以上、3回目は2回目から3か月以上空けます。

【接種場所】

大田区内の協力医療機関（予診票は備え付けなので、区から発送しません）

※ 上記以外の医療機関で接種する場合は、助成を受けられません。

※ 予約が必要な場合がありますので、事前に接種する医療機関へご確認ください。

【助成手順】

母子健康手帳及び大田区民であることがわかる物（子ども医療証等）を、大田区内の協力医療機関に持参し、備え付けの予診票を使用して接種を受けてください。

1 予防接種の効果について

ヒトパピローマウイルス（HPV）は、がん（子宮頸がんや肛門がん等）や性感染症（尖圭コンジローマ）を引き起こすウイルスであり、4価 HPV ワクチンは上記疾病の発症に関係する HPV 6、11、16、18 型の4つの HPV 型の感染を予防するワクチンです。

HPV に感染すると、男性は肛門がんや尖圭コンジローマ等、女性は子宮頸がんを発病する恐れがあります。感染している可能性が低い10代前半に予防ワクチンを接種することで、男性自身の疾病を予防すると同時に、未感染のパートナー等の子宮頸がん発症率の減少も期待できます。

【裏面もご確認ください】

2 副反応について

多くの方に、接種部位の痛みや腫れ、赤みなどが起こることがあります。

重い副反応としては、まれに、呼吸困難やじんましん等（アナフィラキシー）、手足の力が入りにくい（ギラン・バレー症候群）、頭痛・嘔吐、意識低下（急性散在性脳脊髄炎（ADEM））等が起こることがあります。主な副反応は以下のとおりです。

頻度	副反応
10%以上	注射部位の痛み・赤み・腫れ
1～10%未満	頭痛、注射部位のかゆみ、発熱
0.1～1% 未満	からだがふらつくめまい、感覚が鈍くなる、傾眠(刺激がないと眠ってしまう)、体が回転しているように感じる、下痢、腹痛、悪心、手足の痛み、筋肉が硬くなる、手足の不快感、注射部位のしこり・出血・不快感・内出血・変色・知覚低下・熱感、だるさ、白血球数増加
頻度不明	皮ふ局所の痛みと熱を伴った赤い腫れ、リンパ節の腫れ・痛み、失神、おう吐、関節の痛み、筋肉痛、注射部位の血腫、無力症(まぶたが下がる、物がだぶって見えるなど)、寒気、疲れ

3 予防接種の注意事項

<予防接種を受けられない方>

- ① 明らかに発熱している方（37.5℃以上）
- ② 重篤な急性疾患にかかっている方
- ③ 予防接種やそれに含まれる成分でアナフィラキシーを起こしたことがある方
- ④ その他、医師が予防接種を受けるのに不適切な状態と判断した方

<予防接種前に医師と相談しなければならない方>

- ① 血小板が減少している、出血した際に止まりにくいなどの症状のある方
- ② 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障害などの基礎疾患のある方
- ③ 過去に予防接種で接種後2日以内に発熱がみられた方
- ④ 過去にけいれん（ひきつけ）をおこしたことがある方
- ⑤ ワクチンを接種した後や、けがの後等に原因不明の痛みが続いたことがある方

<接種後の注意事項>

- ① 痛みや緊張等によって接種後に一時的に失神や立ちくらみ等が生じることがあります。
接種後30分程度は安静にしてください。
- ② 接種を受けた日は、激しい運動は控えましょう。
- ③ 接種後に体調の変化があった場合、接種を受けた医師にご相談ください。

4 予防接種による健康被害救済制度について

予防接種は感染症を防ぐために重要ですが、まれに健康被害の発生がみられます。

本事業の予防接種によって引き起こされた副反応が原因で、生活に支障を残すような健康被害が生じた場合は、独立行政法人医薬品医療機器総合機構法に基づく救済の対象となる場合があります。